

現場のスタッフとの連携について

全体の流れやフィールド学習など、実施するプログラムを決定しスケジュールを組むにあたり、利用施設との打ち合わせを含めた連携が必要です。連携を持つことでより充実したカリキュラム作りを進めることができます。相談役として、案内役として、利用施設と現場スタッフとしっかり打ち合わせをしましょう。

事前

特にフィールド学習を行う際は、事前に利用施設との打ち合わせ・調整が必要です。まずは実施するプログラムを決め、フィールド学習実施日時および下見日時等を連絡しましょう。

下見・打ち合わせ

実際に使用するフィールドを見学し、スタッフと当日のタイムスケジュールなどの打ち合わせをしましょう。その際、以下の項目がポイントです。

◎ 1.カリキュラムの確認

プログラムを実施するにあたって、学習のねらいを明確に伝えましょう。

◎ 2.学習の流れ

事前学習を受けて、フィールド学習の効果が出ます。また、フィールド学習後、どのように発展させようと考えているか、なども担当者に伝えておくのが良いでしょう。

◎ 3.安全対策

実際にフィールドを見ながら、園内の利用規則や立入禁止区域等について確認しましょう。

◎ 4.備品の貸出

利用施設より貸し出しできるものもありますので、相談しましょう。

当日

スケジュールや人数の変更など、スタッフとの確認作業をとりましょう。

事後

フィールド学習の感想や改善点、学校で行った事前・事後の学習の取り組みなどを利用施設に連絡しましょう。フィールド学習だけに限らずいろいろな時に連携を持つことで、学習もよりいっそう充実します。

フィールドを利用する時の留意事項

「新宿御苑」や「横浜自然観察の森」などの公園・緑地には、さまざまな動植物が数多く生息しています。フィールド学習の際は目的を持った上で、生きものたちへの配慮や野外でのマナーについて理解を深めましょう。

◎ 地域の特徴を活かそう

“生きもの”と一口に言っても、地域によって見られる種類が異なります。種類によっては見られる季節が限られたり、保護を必要とする希少種であることもありますので、地域の自然情報を収集した上で、取り上げる生きものを決めましょう。

◎ みんな生きています

公園に生息している動植物の採取は原則として禁止されています。しかし、プログラムによっては例外もあります。スタッフの指導を受けながら実施しましょう。

◎ 服装で活動が決まる！

野外活動での衣服は、動きやすく汚れてもいい衣服や靴が基本です。野外では、蚊やハチ・アブなど人に害を及ぼす生きものや、トゲがあったりかぶれやすい植物もあることから、長袖・長ズボンが適しています。

◎ 忘れないで！

天候が変化する場合もありますので、“傘”や“雨具”は忘れずに持参しましょう。雨天時の活動をしやすいするために、雨具は両手が使えるようなレインウェアが最適です。

◎ 安全管理はしっかりと

野外では、予期せぬアクシデントやトラブルが起こる可能性もあります。プログラム中の安全管理は付き添われる先生方にも徹底をお願いしています。「救急用品」はできるだけ携行してください。外傷剤として消毒液、バンドエイド、包帯、とげ抜き、つめ切りなどがあるとよいでしょう。

◎ 雨天時でもOK！

雨天時でも実施可能なプログラムもあります。また、雨だからこそできるプログラムもあります。スタッフと打ち合わせを行い、学習を進めていきましょう。

◎ 近隣施設を利用しよう！

地域の施設や団体は学校にない学習情報をたくさん持っています。できるだけ早い時期から相談し、利用機会を持つてはいかがでしょう。道具の貸し出しや、学習にあたってのアドバイスが得られます。

利用施設のスタッフは、あくまでもサポート役です。学校での学習がよりスムーズに、より充実した内容になるよう、お手伝いをします。